

ながえの里だより

【基本理念】 私たちは、すべての患者さまに等しく仁愛の精神を持って接し、心の通う医療の実践に努めます。

【基本方針】 責任：生命の尊厳を第一の課題として重んじ責任をもって行動する

安全：すべての行為に対して細心の注意を払い安全の確保に努める

協調：チーム医療に徹し互いに協調しその実をあげることに努める

奉仕：すべての患者さまを等しく仁愛の精神を持って接し医療を通じて社会に奉仕する

二十周年を迎えて想うこと

院長 村尾文規



患者様、患者様家族、職員が出席しての
創立二十周年記念式典

二十周年を迎え、歴史の証人として、この舞台にいることを誇りに思うし、ありがたいことと感謝している。2年前、はじめてこの丘に立ったとき以来、創始者は、ここで何を思ったのだろうかともまず考えた。それを解く鍵は、同仁という言葉に集約されているものと思い、「すべての患者様に等しく仁愛の精神をもって接し、心の通う医療の実践につとめます」という、基本理念の骨子をつくった。その直後から、なにかしっくりしないという思いに駆られていた。丁度、そのころ、どんな仕事場であれ、職員一人一人が主役でなければならないという思いをコンセプトとしてとりあげてを主張した。このところQOLの改善された方が相次いだ。このことは、職員一人一人が、患者様を慈しみ、しっかりと向き合っ頂いた結果であることは自明の理である。私たちは、お互いに主役である職員にこそ、まず労わりの言葉をかけるべきであろうし、慈しみの心も忘れてならない。そこで、理念は「すべてのひとに仁愛の精神をもって接し心の通う医療の実践につとめる」とすべきではないかと思うようになった。二度とない二十周年の春は、やがて、過去の彼方に忘れ去られていく。決して、忘れてはならないことがある。皆でつくった理念はすてきな言葉の記念碑として、桜の記念樹とともに残したいものである。これこそ創始者が抱いた志であるに違いないと思うからである。「禅宗によれば、偉大な真理は言葉ではなく、ある種の伝染によりこころに届く」とある。真理には倫理的に正しい生き方という意味がある。仕事場は生き方を知るための道場でもある。皆で作った理念が、時空を越えて、職員一人一人の心に届くことを祈っている。



写真中央 創始者 西村 馨
右 現事務長 西村雄二

庄原同仁病院創立二十周年を迎えて

事務長 西村 雄二

年月の過ぎるのは早いもので、庄原同仁病院設立以後二十年も過ぎました。現在、104床と県北地域では中規模な病院に成長いたしました。これも、病院に携わる地域のみなさまと献身的に職務に携わる職員のおかげだと、深く感謝するところであります。

私の父が二十年前に、この素晴らしい環境の地に、多くの地域のみなさまの為に病院を立ち上げました。現在の四代目院長 村尾文規先生のもと職員は、全ての人々に仁愛の精神で接し、全員が明るくストレスの溜まらない職場を目指し、今後も多くの地域のみなさまの方に貢献できる病院として、職員全員で力を合わせて成長していきましょう。



記念樹としてソメイヨシノ2本を植樹しました

病院の移り変わり



昭和62年8月、創立から約半年経った頃の正面玄関付近の写真です。玄関も今と違い落ち着いたつくりで中央には広大な芝生広場がありました。

現在の正面玄関付近です。写真中央が2病棟A、右端に少し見えるのが食堂やリハビリ室のある2病棟Bです。玄関は優しいピンク色の洋風に変更されました。

「勤続二十年を迎えて」

経理 佐倉 和子



経理 佐倉和子

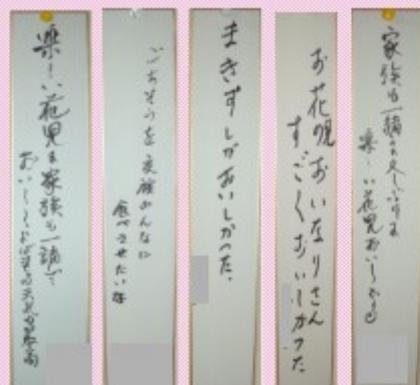
二十年前、庄原同仁病院の面接試験は、後にも先にもない大雪で、ハローワークであった事を覚えています。当時、保育士の仕事を希望していた私は、軽い気持ちで受けましたが、同じ職場で最後まで働きたいという思いがあり、庄原同仁病院で頑張る決心をしていました。いざ、スタートしてみると、医療改定や、増床、改修工事とめまぐるしく環境が変わり、季節も感じる余裕もなく途中何度も投げ出したいと思う時期がありました。二十周年を迎えられた今、その頃のことはすっかり忘れていています。私は庄原同仁病院が、平屋建てで、静かな雰囲気がとても気に入っています。患者様とふれ合い、保育士の資格を生かせる場所もあるので、毎日が充実しています。家庭の都合で後どれ位居られるかわかりませんが、勤務できる間はしっかり病院に貢献したいと思っています。



平成3年の夏、玄関前駐車場で流しそうめんの風景。

創立二十周年記念 お花見会 栄養課 酒井武子

お花見会を御題に患者様達の一句



お花見弁当

① お弁当表紙

② 箸いれ

二十周年記念という大きな行事で患者様と御家族の方にお出しする「お花見弁当」を栄養課で作る事が決まり、色々な案を出し合いながら取り組みました。お弁当パック選びから始まり、

食材も筍、たらの芽、ごごみ、葉わさび等旬の物を選びました。メニューも患者様に日頃から大人気の巻き寿司、刺身、天ぷらにして喜んで食べて頂ける様に考えました。記念になる様に仕事の手順も決めました。写真①の、庄原同仁病院の写真を撮り、弁当箱の表紙を作る人 ②の桜の花の絵を描いて一言添え、それを折って箸入れを完成させる人、食事に関しても何回も話し合いを行ないました。当日は、通常の作業と平行して栄養課全員で弁当を完成させました。お花見会では、私達も直接患者様を介助することで見たり聞いた一挙一動に感動し、患者様や家族の方からかけて頂いた感謝の一言一言や礼状等に、満開の花を見る以上に美しく新鮮な感動を覚えた一日となりました。

これからも助け合い日々努力して頑張ろうという気持ちになりました。(感謝しています)



絶好のお花見日和の日 満開の桜の下でのお花見会

栄養課のみなさん

「創立20周年記念行事を終えて」

記念行事実行委員長 山崎壽久



記念行事実行委員会のみなさん

創立20周年記念行事の際は、多くの方々にご出席を賜り誠にありがとうございました。心配した天気も、爽やかな良い日に恵まれ、植樹祭とお花見会を桜吹雪の中で行なうことが出来たことを感謝いたしております。お花見弁当を、おいしそうに食べられておられる皆様の笑顔を見し「また頑張ろう」と思う元気を頂いたと共に、この日に向けて準備に奔走した全職員に感謝する一日でした。今後とも、皆様に安心して療養して頂ける病院である様に努めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

庄原同仁病院「地域連携室」開設のお知らせ

皆様に安心して医療を受けていただきますよう、又、医療、看護、関係機関との連携をはかるために、地域連携室を開設しました。

- ① 地域の病院、医院、診療所、施設より入院患者様を承ります。
- ② 入院患者様の医療、看護、福祉相談を承ります。
- ③ 退院、転院、施設入所についての支援をいたします。
- ④ 他医療機関との連絡調整を行ないます。

スピーディーに、丁寧に、をモットーに努めますので、お気軽にご相談下さい。

地域連携室スタッフ一同



写真左	看護主任	北岡久美子
中央	室長	西村悦子
右	副室長	山崎壽久



患者様リハビリ作品の紹介

毎月手作りカレンダーを作成しています。今回紹介する作品は「5月の鯉のぼり」です。鯉は折り紙、背景はちぎり絵に、約1週間をかけ完成しました。



新職員紹介



ケアワーカー 戸村恵子

2月より2病棟のケアワーカーとしてはたらいております。皆様よろしくお願いたします。



看護師 児玉万須美

趣味はウインドー&ネットショッピング、冬はファンスキーです。頑張りますのでよろしくお願いいたします。



看護師 藤原つゆ美

患者様が一日一日を心穏やかに過ごせる様に、行き届いた御世話ができるように頑張りたいと思います。

編集後記

4月より各々1人1人が新たな気持ちで新年度を迎えている事と思います。私も入職5年目となり、これからは毎日の日々の業務をこなしていくだけではなく、基本理念と、2007年度の目標を常に念頭に置き、5感を働かせ、自己のレベルアップをはかるよう努力していきたいと思ひます。宜しくお願いたします。 4月より新聞委員1年生 伊達 信介(ケアワーカー)